

平成 25 年 度 学 校 自 己 評 価 表

鳥取県立鳥取東高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める。	今年度の 重点目標	「しのめプロジェクト」の推進 1. 学力向上のための教科学習の充実と授業力向上 2. キャリア教育の充実 3. 文武両道を基本とした教育活動の推進 4. 生徒指導の徹底と健康・安全管理の充実
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度への改善方策
1 学力向上のための教科学習の充実と授業力向上	①自宅学習時間を増やすとともに、学習の質を高める。	○与えられた課題の取組み状況は良いが、主体的・計画的な学習は不十分である。 ○1・2年生の家庭学習が量的に要求水準に達しない傾向がある。 ○読書量が少なく、学習における基盤に弱さがある。	○生徒が自己の効率的な学習習慣・学習方法を確立する。 ○家庭学習を毎日計画的に行っている生徒が70%以上。 ○新書レベルの書物を継続して読める生徒の集団を作る。	○1・2年生に対し、予復習の課題を徹底指導(具体的且つ明確に周知)。 ○スタディサポートや自宅学習時間調査を活用し、生徒一人一人の学習実態に応じた有効な指導。 ○意欲喚起につながる面談の実施。 ○朝読書や図書委員会活動の活性化を通じて読書を啓発する。			
	②各教科ごとに学力実態を把握・分析した上で、学力向上プログラムを実践し、授業の質を高める。	○学年間の学習期間において到達すべき学力、その育成プログラム、指導法等は各教科ごとに概ね共有されている。 ○授業に対する生徒の満足度は高い。知的活動が活性化され、学問への興味・関心や主体的な学習態度が育成される授業づくりが求められる。	○学力層に応じた適切な教科指導により学力向上が図られる。 ○授業に対する生徒の満足度が90%以上。 ○授業を通じて学問に対する興味・関心や主体的な学習態度が高まったと感じる生徒の割合が70%以上。	○進路指導委員会で学力を分析し、それをもとに教科ごとの有効な指導プログラム・取り組みを実践。 ○授業アンケートを授業の質的改善に活用。 ○授業力向上に向けた研修・研究活動の充実。			
2 キャリア教育の充実	③高い志を持ち、自己の将来像を設計し、実現に向けて努力する力を育成する進路指導。	○自立した学習への取組みが進路決定期までずれ込む生徒が少なくない。	○(1年生)自分の適性を知り進路目標が持て、進路実現のために必要な学習内容・学習方法がわかる生徒が60%以上。 ○(2年生)職業や大学等の具体的な進路目標が持て、大学(学部・学科)の教育内容や入試制度がわかる生徒が75%以上。 ○(3年生)適性に応じた進路目標が設定でき、進路実現のための必要な学力がわかり、身につけようとしている。	○LHRや総合的な学習の時間を活用した進路プログラムにより、進路意識の向上を図る。 ○「鳥取学」校外学習、進路講演会など、校内外の教育力を活用し、生徒が高い志を持ち、将来像を描けるよう指導する。 ○進路選択や学部・学科研究に、言語技術教育の手法を取り入れた様式の進路資料を有効活用する。			
3 文武両道を基本とした教育活動の推進	④学習と部活動の両立。	○学習と部活動をうまく両立させていると感じている部加入生徒(1・2年)が平成24年度末 57%。	○学習と部活動をうまく両立させていると感じる生徒が70%以上。	○学級担任・教科担任と顧問の連携した指導の実践。 ○家庭学習を計画的に行う時間が確保されるよう、効率的な部活指導を展開。			
4 健康・安全管理の充実	⑤健康・安全に関する自己管理のできる生徒の育成。	○睡眠を中心とした体調自己管理が不十分で、保健室来室生徒が多い。 ○自転車乗車マナーについての指摘を受けることがある。登下校時の自転車による接触事故が十数件ある。	○各家庭における生活習慣(起床時間、帰宅時間、自宅学習開始時間、就寝時間等)を改善する。 ○自転車マナー向上と登下校時の事故減少。	○生活習慣の改善に向けて生徒保健委員会の活動を充実させる。 ○健康・安全についてPTAと協力した取り組みの実施。 ○登下校時の交通安全指導を適時実施。			

評価基準 A: 十分達成 (100%) B: 概ね達成 (80%程度) C: 変化の兆し (60%程度) D: まだ不十分 (40%程度) E: 目標・方策の見直し (30%以下)